

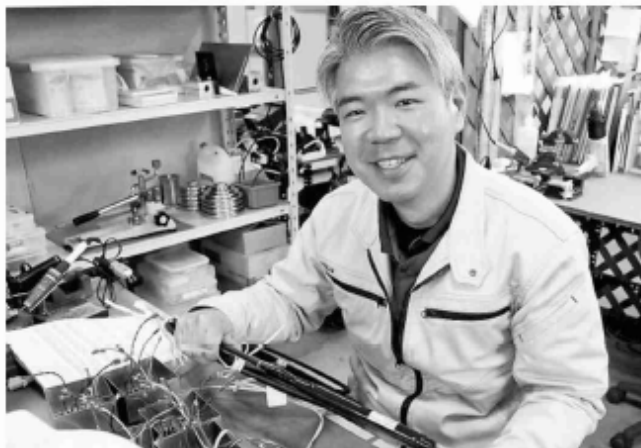
温泉枯渇 予防に一役

世界屈指の温泉大国・日本。貴重な資源を守るのに欠かせない温泉用水位センサーで国内シェア9割を誇る企業が、横浜市都筑区にある。社員数わずか6人の日高システムだ。同社の主力製品は、温泉の枯渇防止や作業の省力化が期待できるとして、全国各地の温泉施設で活用されている。(森 俊平)

日高システム(横浜市都筑区)

温泉などをくみ上げるポンプの製造会社で働いていた先代の社長が、1996年に創業。当初は井戸などを調査する水位計の委託製造を手がけていたが、2000年ごろから自社製品の

水位計でシェア9割



温泉用水位計のメンテナンスを行う日高システムの五十嵐社長
＝横浜市都筑区

◆日高システム 1996年創業。資本金1千万円。従業員数6人。横浜市都筑区茅ヶ崎東4の7の11。☎045(944)56333。

「水位が下がると、回復するまで待たなければならぬ。地下何百メートルの水面は目視できないため、放出量を調整、判断するために水位計は必要不可欠」。水位センサーは温泉の状況を把握し、最良の状態に保つ役割もあるという。

「水位が下がると、回復するまで待たなければならぬ。地下何百メートルの水面は目視できないため、放出量を調整、判断するために水位計は必要不可欠」。水位センサーは温泉の状況を把握し、最良の状態に保つ役割もあるという。

「水位が下がると、回復するまで待たなければならぬ。地下何百メートルの水面は目視できないため、放出量を調整、判断するために水位計は必要不可欠」。水位センサーは温泉の状況を把握し、最良の状態に保つ役割もあるという。

開発に乗り出したという。このうち、国内で圧倒的なシェアを誇るのが、創業時から製造している温泉用水位センサー「OGI」シリーズだ。



センサの先端には、水圧を感知するシステムを内蔵。素材は、硫酸やアルミニウム、塩化物などの温泉成分に対応し、腐食にも強いステンレスを採用。内部に水が入らないよう、密閉

された収縮性のチューブで覆っている。これを、温泉をくみ上げる際に使う水中ポンプにくくり付けて水深を測る。

「地下1千メートルまで対応可能なで、水温は80度まで耐えられる。温泉を守る重要な役割を持つ」と五十嵐社長(47)。箱根町や湯河原町をはじめ全国約200カ所の温泉施設に納品している

「水位が下がると、回復するまで待たなければならぬ。地下何百メートルの水面は目視できないため、放出量を調整、判断するために水位計は必要不可欠」。水位センサーは温泉の状況を把握し、最良の状態に保つ役割もあるという。

「水位が下がると、回復するまで待たなければならぬ。地下何百メートルの水面は目視できないため、放出量を調整、判断するために水位計は必要不可欠」。水位センサーは温泉の状況を把握し、最良の状態に保つ役割もあるという。